

## 第33回中村元東方学術賞審査委員会報告

審査委員会における選考経過を報告し、併せて授賞理由を述べさせて頂きたいと思います。この度の選考に際しましては、「中村元東方学術賞」審査委員会委員の先生方の他に、これまでに東方学術賞を受賞された方々にも、「中村元東方学術賞」に相応しい功績のある研究者の推薦をお願い致しました。諸先生から推薦された研究者は、それぞれに優れた業績を挙げておられ、選定は困難を極めましたが、慎重な審議の結果、第33回中村元東方学術賞を中央大学教授、保坂俊司（ほさか・しゅんじ）氏に授与することに決定致しました。授賞理由は以下の通りです。

### 保坂俊司教授中村元東方学術賞授賞理由

保坂俊司氏は1956年、群馬県渋川市にお生まれになり、1981年3月、早稲田大学社会科学部をご卒業。その後、1991年、同大学院文学研究科東洋哲学専攻修士課程修了。その間、1982年から84年にかけてデリー大学に学び、1983年から84年までは、グル・ナーナク研究所の客員研究員を務められました。

保坂氏は、インドから帰国後、1992年4月から麗澤大学国際経済学部専任講師、助教授、教授と進まれ、さらに同大学大学院比較文明文化専攻科教授となりました。そして、2008年9月より中央大学の総合政策学部教授に転じ、2019年、同大学の国際情報学部新設に関わり、現在に至っておられます。

保坂氏の専門とされる分野と領域は、その著作、論文などの業績から窺われるように非常に広く、宗教学、比較宗教学、仏教学などの幅広い学問分野に及んでいます。特に、インド・イスラームを中心とした啓蒙書を含む多彩な出版活動を通じ、インド・イスラーム（スーフィズム）について教育研究活動を展開されています。

保坂氏は、インド、スリランカなどの南アジア諸国を中心として、中央アジアなどのイスラーム地域における積極的な調査活動を行っておられ、文献資料研究にとどまらず、併せて当該地域の宗教社会状況を、歴史・文化そして現在の状況をも含めて、多方面に亘って研究してこられました。

保坂氏のご業績は、単著としては主として以下のようなものがございます。

- 『シク教の教えと文化 大乘仏教の興亡との比較』平河出版社、1992
- 『イスラームとの対話』成文堂選書、2000
- 『インド仏教はなぜ亡んだのか イスラム史料からの考察』北樹出版、2003
- 『イスラム原理主義・テロリズムと日本の対応 宗教音痴日本の迷走』北樹出版、2004
- 『仏教とヨーガ』東京書籍、2004
- 『知識ゼロからの世界の三大宗教入門』幻冬舎、2005
- 『戒名と日本人 あの世の名前は必要か』祥伝社新書、2006
- 『国家と宗教』光文社新書、2006
- 『宗教の経済思想』光文社新書、2006
- 『ブッダとムハンマド 開祖でわかる仏教とイスラム教』サンガ新書、2008
- 『癒しと鎮めと日本の宗教』北樹出版、2009
- 『「格差拡大」とイスラム教』プレジデント社、2015
- 『グローバル時代の宗教と情報 文明の祖型と宗教』北樹出版、2018
- 『インド宗教興亡史』ちくま新書、2022

保坂氏は、その他にも、翻訳、辞書の編集、一般向け書籍の監修、雑誌への寄稿等にも積極的に関わってこられました。

著書のみでも多数に及びますが、これらの中で、ご自身が特に力を入れられたのは、中村元博士が開拓された学問領域である「比較思想学」をはじめとして、仏教を中心とするインドの宗教研究への「社会科学の視点」の積極的導入、また、現地調査を含めての「宗教社会学」領域の研究において、中村元学の継承を目指しておられます。また、中村元博士の勧めにより取り組まれた「インド中世期の宗教交流」に関する研究は、現在も引き続き積極的に推進されておられます。特に、シク教の本格的な研究では、日本におけるパイオニア的な存在として、高く評価されています。

一方、インドにおけるイスラームの伝播定着期の史料研究により、インド仏教の衰亡に関する研究に、新たな方向性を開いている点は、注目に値します。いずれにしても、保坂氏のきわめて広範囲に及ぶ研究は、従来の学問領域の概念からは、はみ出す部分もありますが、この点は中村元博士から受け継いだ「比較思想」や、更に広域を扱う「比較文明学」の方法論の応用として評価されています。

保坂氏は、1989年4月から1990年3月まで財団法人東方研究会研究員兼事務局員として務められ、1990年4月から1992年3月にかけて財団法人東方研究会事務局主事を務められました。さらには、2012年4月から2019年3月までは、同研究所の理事も務められており、当研究

所と深く長い関わりがございます。保坂氏は、まだ中村元博士がご存命であった折には、事務局主事として中村元博士の手足になり、当研究所の発展に大きな実績を残されました。また、中村元博士逝去後には、『中村元の仏教入門』一東方学院における故中村元学院長の講義内容をまとめた書物ですが一編集のために、中村元博士の講義の録音テープの収集、文字起し、編集を保坂氏自身が担当されています。このように、中村元博士の東方学院での活動を、書籍の形で残すことを通して、不特定多数の人々に中村元博士の思想を普及させることにも、大きく貢献されたといえましょう。また、当研究所による日本学術振興会の科学研究費の取得に際しても、企画・立案から研究推進に至るまで、大きな貢献をされておられます。

先生の学界における受賞歴としては

第4回麗澤大学学長賞 2007年9月 麗澤大学

第4回比較思想学会学術奨励賞 1992年6月

「中世インド神秘主義思想の神性表現における諸問題

ーカピール・ナーナクにおける神秘思想を中心としてー」があります。

また学会活動としては、

現在 比較文明学会会長（2023年8月まで）、比較思想学会・日本宗教学会理事・経済社会学会理事・仏教看護・ビハーラ学会などで理事・監事としてご活躍をされておられます。

このように、保坂俊司氏はインド・イスラーム、シク・イスラーム世界を中心とした実地調査を基盤として、積極的に学問的成果を収めてこられ、それらを刊行されました。のみならず、保坂俊司氏が中村元東方研究所ならびに東方学院に対してなされたご貢献とご支援には、特筆すべきものがあります。以上の点から、保坂俊司氏を、第33回中村元東方学術賞授賞者に相応しいものと判断致します。